

きょうされん40周年記念映画 上映会

第60回科学技術映像祭
文部科学大臣賞受賞

2018年
第92回キネマ旬報
文化映画ベスト・テン・第9位

夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の100年

今から百年前
精神病に有効な治療法が無かった時代
座敷牢に幽閉された精神病患者を救おうと奔走した
一人の男がいた

我が国十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし。精神病患者の救済・保護は実に人道問題にして、我が国目下の急務と謂はざるべからず。 呉秀三

2019

12.3(火)

上映時間 ①16:00-17:06
②19:00-20:06

今井友樹監督作品

ナレーション 竹下景子

企画 藤井克徳/監修 広瀬徹也
プロデューサー 中橋真紀人/撮影 小原信之/編集 古賀陽一
協力 一般社団法人 障害者映像文化研究所/バリアフリー版制作 Palabra株式会社
製作協力 株式会社 工房ギャレット
製作 記念映画製作委員会 公益財団法人 日本精神衛生会/きょうされん/有限会社 イメージ・サテライト
ドキュメンタリー/2018年/66分/BD

主催 きょうされん神奈川支部

後援 相模原市 / 相模原市社会福祉協議会

拘束は今でも残っている

監禁は今でも行われている

心を病んだ人々はなぜ閉じ込められなければならないのか？

精神の病とは…人間の尊厳とは…今だからこそ呉秀三の取り組みから学ぶ！

●座敷牢に幽閉された人々を救うため、100年前に立ち上がった精神科医●



今から100年も前に、座敷牢に幽閉された障害のある人々を救おうと立ち上がった精神科医がいる。その人の名は呉秀三(くれしゅうぞう)。世田谷区にある都立松沢病院が開設されたときの初代院長。1918年(大正7年)に、呉は全国の「座敷牢」を調査し『精神病者私宅監置の実況および、その統計的観察』を発表した。「この病を受けた不幸の外に、この国に生まれた不幸を重ねるもの」と訴え、日本の障害のある人々の惨状を、はじめて明らかにした。



●拘束具を焼き払い、初めて作業療法を実施●



1897年(明治30年)、東京帝大・巣鴨病院の医長に就任した呉は、ドイツ、ウィーンに留学し、精神病を分裂病(統合失調症)と、躁うつ病(双極性障害)に分類したクレペリンの教えを受けた。帰国の前に呉は、ベルギーのGeelの地域精神保健センターを訪れた。障害のある人々を隔離収容するのではなく、「里親制度」のもとで、街の中で暮らし、働き、地域の人々と交わるなかで治療する地域精神保健がとりにくまれているのを目にした。それに影響を受けたことが、呉の精神医療の礎となった。帰国した呉は、巣鴨病院医長として、ただちに「座敷牢」の調査と統計に着手・発表した。その翌年の1919年(大正8年)に、巣鴨病院が世田谷の松沢に移転し、東京都立松沢病院の院長に就任した呉は、まだ向精神薬のなかった時代に、「拘束具の廃止」を決断し、松沢病院にあった拘束具を焼き払い、初めて作業療法にとりくんだ。

●なぜ今、「座敷牢」監禁事件が生じているのか…●

皮肉にも呉が「座敷牢と拘束具の廃止」を呼びかけてから100年を経た現在でも監禁事件が起きている。2017年12月「大阪府寝屋川市で監禁死亡事件」、2018年4月「兵庫県三田市監禁事件」の報道は多くの人々に衝撃を与えた。なぜ呉は、人権を保障する日本国憲法や福祉法がない100年前に、座敷牢の廃止を呼びかけることができたのか？ どうして拘束具を廃止できたのか？ にもかかわらず現代日本で、座敷牢の発覚や拘束具の増大という事態が生じているのか？ 映画『夜明け前』を通して改めて考えてほしい。

勇気をもって前へ

いつの時代も、社会を前に進めるのは、一人の気づきとそれに触発された大勢の仲間たちです。いまも心の病を持つ人々が正しく理解され、その人権が十分に守られているとはとても言えません。しかし、彼らが私宅監置などのもつとひどい処遇を当たり前を受けていた時代に、呉秀三はそのおかしさに気づき、病者に治療と福祉の光をあてようとしたのです。私も本作から多くを学び、勇気づけられました。

立教大学教授 香山リカ

・相模女子大学グリーンホール (相模原市文化会館)

相模原市南区相模大野4-4-1 小田急線「相模大野駅」北口より徒歩4分

- ①開場 15:00 上映 16:00 上映終了 17:06
- ②開場 18:00 上映 19:00 上映終了 20:06 上映時間66分

- ・チケット料金 一般：1000円 当事者、学生：500円
- 当映画はバリアフリー版での上映となります
- 前売り券、当日券、ともに金額に変更はありません

- ・問い合わせ：きょうされん神奈川支部 (夢21上星川内)
- TEL:045-334-0491 FAX:045-331-4653

予告編はこちら



あたりまえに働き えらべる暮らしを

きょうされん

